

## 博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	看護学分野
学籍番号	15S3065	院生氏名	村田 尚恵
通学キャンパス	福岡キャンパス		
論文題目	大学病院に勤務する新卒看護師のレジリエンスの影響要因		
審査結果(枠で囲む)	<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">合格</span> <span style="margin-left: 100px;">不合格</span>		
<p>&lt;審査結果の要旨&gt;</p> <p><b>1. 研究の概要</b></p> <p>本研究は、大学病院に勤務する新卒看護師のレジリエンスの影響要因を明らかにすることを目的とした前向きコホート研究である。全国の大学病院28施設に勤務する新卒看護師2128人を対象に調査を実施し、有効回答1423人でコホート集団を設定し、7か月間追跡した。</p> <p>研究1では、ベースライン調査における新卒看護師のレジリエンスの関連要因を明らかにした。研究2では、7か月後の追跡調査でレジリエンスの評価を行い、新卒看護師のレジリエンスの影響要因を明らかにした。研究3では、ベースライン調査でレジリエンスの総合得点が第3四部位得点以上の者を除いた対象者でコホート集団を設定し、追跡調査にて第3四部位得点以上になった者を高くなったと定義し、新卒看護師のレジリエンスが高くなることへの影響要因を明らかにした。新卒看護師のレジリエンスを高めるためには、看護技術や問題解決の支援、支援を要請しやすい職場環境、理想とする上司の看護師モデルが必要であることが示唆された。</p> <p>本研究は倫理的に問題はなかった。</p> <p>医療の安定供給のために、新卒看護師の就業継続は喫茶の課題である。本研究は、新卒看護師の就業継続におけるレジリエンスに注目したものである。看護師を対象としたレジリエンスの研究はされていたが、横断研究によるものであり、本研究は前向きコホート研究により新卒看護師のレジリエンスに影響する要因を特定した点に新規性がある。影響要因を明らかにしたことは、具体的な支援策の検討につながり、新卒看護師の就業継続の支援に貢献する研究として高く評価できる。</p> <p><b>2. 審査経過</b></p> <p>審査会は3回、遠隔システムでキャンパス間をつなぎ開催した。第1回(11月28日)では、概念枠組みの説明変数、分析結果の解釈、調整済み<math>R^2</math>が低かった理由、看護教育の提言等について質問を行い、ほぼ適切に応答した。上記内容について追加説明や修正及び論文構成の再編を求めた。第2回(12月22日)では、研究デザインに応じた記載、調査内容や使用尺度、研究の限界に関する記述の追加・修正を求めた。第3回(12月26日)では、適正な修正が行われたことを全員で確認した。</p> <p><b>3. 合否結果</b></p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(看護学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主 査 世良 喜子</p> <p>副 査 赤居 正美</p> <p>副 査 山本 康弘</p>		